

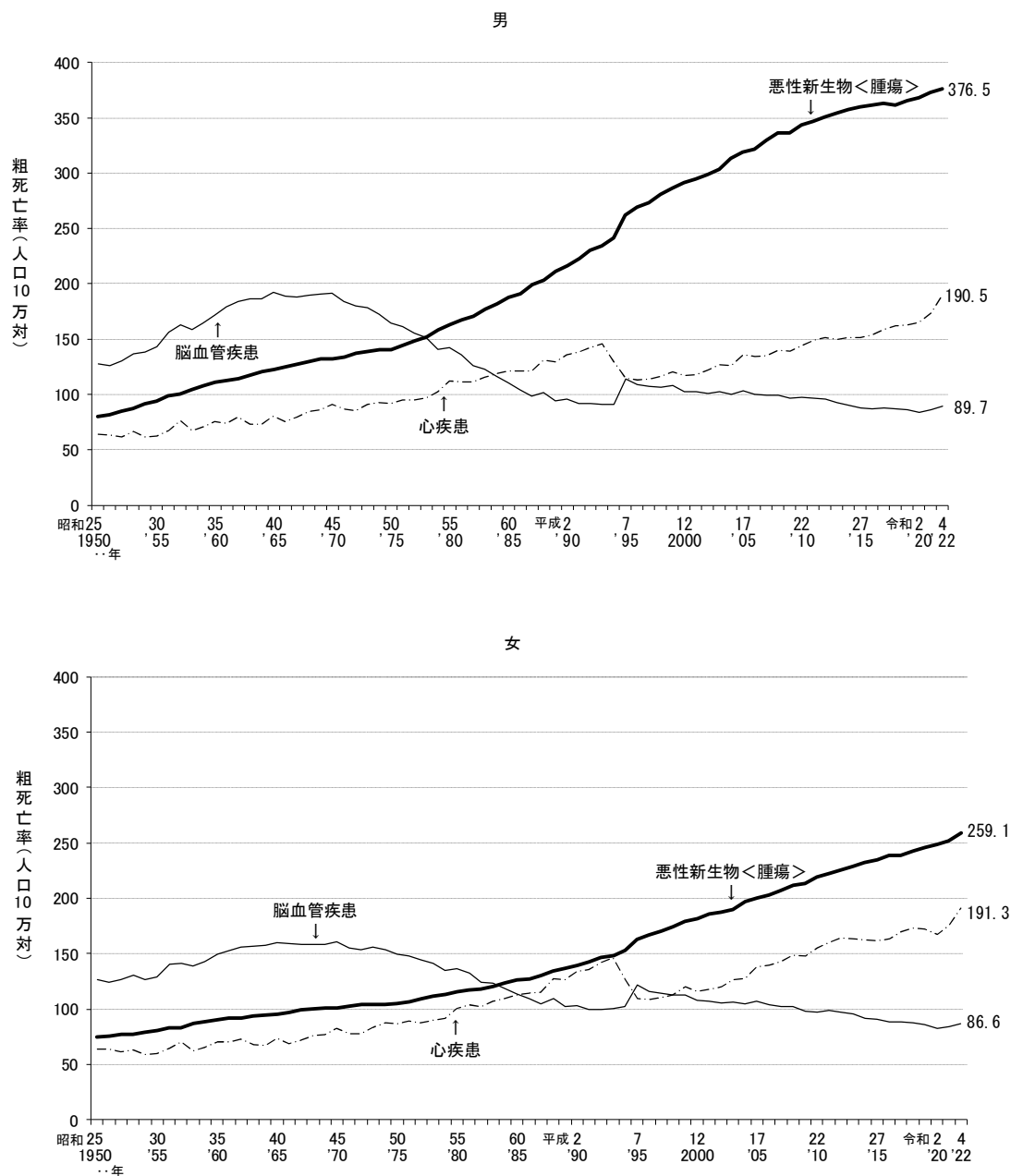
2. 三死因(悪性新生物<腫瘍>、心疾患、脳血管疾患)による死亡の状況

○全国の三死因による死亡の状況の年次推移

令和4年(2022)の粗死亡率をみると、悪性新生物<腫瘍>は男 376.5、女 259.1、心疾患は男 190.5、女 191.3、脳血管疾患は男 89.7、女 86.6 となっている。

平成7年(1995)の死因分類改訂後(第10回改訂国際疾病傷害死因分類(ICD-10))の同年の粗死亡率と比較すると、悪性新生物<腫瘍>の男では 114.5 ポイント、女では 96.0 ポイント、心疾患の男では 76.1 ポイント、女では 81.7 ポイント上昇しているが、脳血管疾患の男では 24.5 ポイント、女では 34.8 ポイント低下している。(図4-1、統計表2)

図4-1 三死因の粗死亡率の年次推移

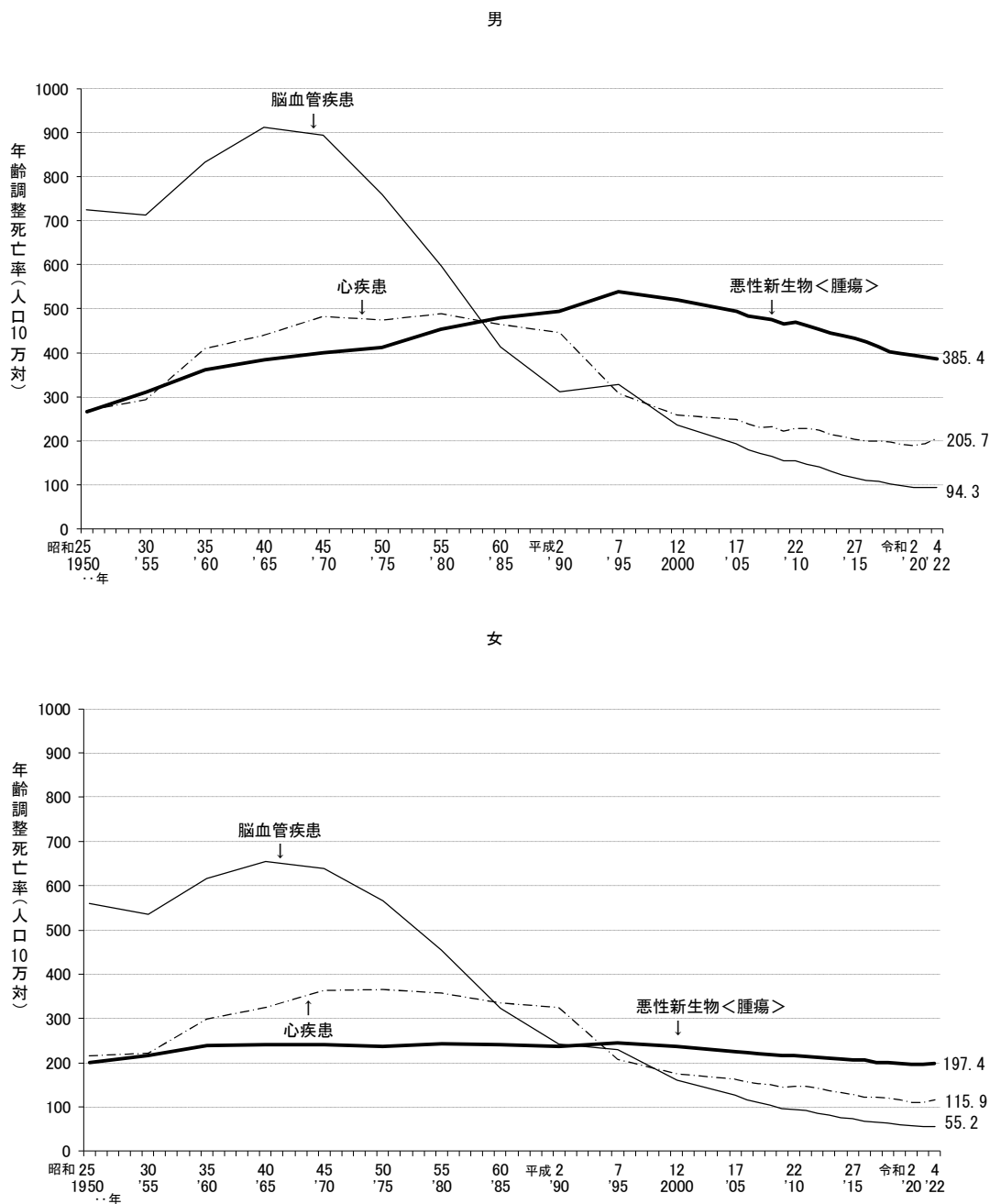


注:平成5年(1993)から7年(1995)にかけての心疾患の低下は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年(1995)1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。

令和4年(2022)の年齢調整死亡率をみると、悪性新生物<腫瘍>は男 385.4、女 197.4、心疾患は男 205.7、女 115.9、脳血管疾患は男 94.3、女 55.2となっている。

平成7年(1995)の死因分類改訂後の同年の年齢調整死亡率と比較すると、悪性新生物<腫瘍>の男では152.3ポイント、女では47.2ポイント、心疾患の男では102.7ポイント、女では91.0ポイント、脳血管疾患の男では233.1ポイント、女では175.3ポイント低下している。(図4-2、統計表3)

図4-2 三死因の年齢調整死亡率の年次推移



注：平成2年(1990)から7年(1995)にかけての心疾患の低下は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年(1995)1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。